


アクアリウム・ダイアリー

2022年3月～2022年5月

催し物

～4月10日	特別展「豊かな海をいつまでも～旅する水とめぐる海洋ゴミのいま～」	3月19日～4月10日	季節展示「サクラニシキ(金魚)のお花見水槽」
3月8日～5月31日	黒潮大水槽マイワシのトルネード春ver.実施	4月29日	バンドウイルカの赤ちゃん命名者認定証授与式
		4月29日～5月5日	GW特別イルカパフォーマンス、ナイトアクアリウム実施
		4月29日～6月26日	季節展示「入れない! 捨てない! 拡げない! No More アメリカザリガニ」
			【水族館スクール「君もドリトル先生になれるか!」】
			3月13日 「飼育係のお仕事」 参加者 6組16名
			【水族館スクール「もっと知りたい!ダーウィン教室」】
			5月15日 「感じて納得!めざせシャチ博士」 参加者 4組13名

生物の出来事

3月 6日	島根県立宍道湖自然館より2020年産アカウミガメ返却	4月10日	ペルーガ「タアニャ」死亡
3月26日	ペルーガの展示および公開トレーニング再開(天井工事が3月25日に終了)	4月29日	バンドウイルカの赤ちゃん命名「レイ」(オス)
		5月 5日	ペルーガ「ホドイ」死亡

来訪者

3月 2日	藤田医科大学 橋尾巧客員教授	4月 1日	北里大学 丑田公規教授
3月14日、5月2日・7日	東邦大学 土岐田昌和准教授	4月15日	名城大学 檜崎友子助教
3月14日	三重大学 宮崎多恵子准教授	4月28日	三重大学 吉岡基教授
3月29日	金城学院大学 岩崎公弥子教授	5月 4日	岐阜大学 楠田哲士准教授
3月30日	三重県総合博物館 北村淳一学芸員	5月20日	名古屋工業大学大学院 石井大佑准教授

講演・その他出来事

【講演など】

3月 2日	日本水族館協会繁殖検討委員会(阿久根雄一郎、神尾高志)
3月 6日	共同研究講演会 東海大学助教 吉田弥生博士 「都会な名古屋港にイルカが来る?～スナメリを音で探してみたらいっぱいいた話～」参加者98名
3月15日	第2回日本水族館協会 水族館研究会(オンライン) 研究発表「バンドウイルカにおける喉での体温測定の有効性」(森朋子) 研究発表「餌料に使用する魚類の熱量」(大島由貴)
3月16日	日本動物園水族館協会中部ブロック獣医師研究会(神尾高志、小谷由佳子)
4月30日	常滑市 スナメリストランディング対応(小林清重、加古智哉)
5月16日～20日	三重大学練習船勢水丸 深海生物など収集のため乗船(星野昂大)
5月19日	鯨類長期飼育繁殖推進委員会(神尾高志)

【職場訪問・水族館レクチャー(館外・オンライン含む)】

11件 453名

【職場体験】

2件 6名

編集後記

さて、次号の「さかなかな」は? ...30周年を迎えた名古屋港水族館。昔の写真資料を見ていると、古くからいるスタッフ同士、あの時誰がどうしたという話でつつい盛り上がってしまいます。Vol.115は開館30周年記念号となる特別版をお送りします。次号もまた見てくださいね!(勝負)

表紙写真【ケープペンギン】

しおがせ広場の放飼場では、ケープペンギンたちの伸びやかな姿を見ることができます。
(季節・時間帯により放飼を行わないこともあります)

ニュースレター さかなかな Vol.114 2022年夏
発行/公益財団法人 名古屋みなと振興財団 名古屋港水族館
〒455-0033 名古屋港区港町1番3号 TEL.052-654-7080
URL <https://nagoyaaqua.jp>
本誌の掲載記事、写真等の無断複製・複製転載を禁じます。

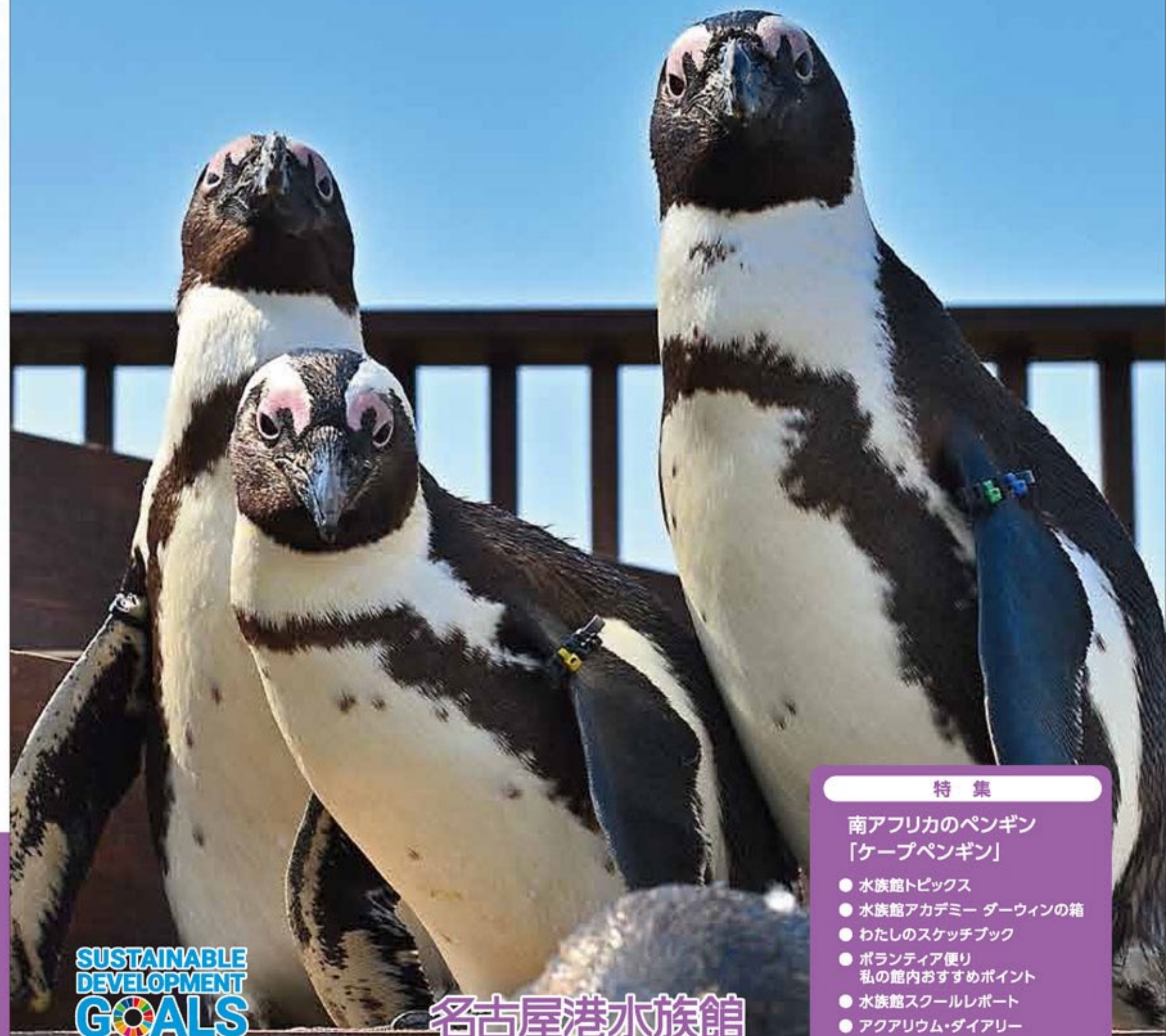
WEBサイト
<https://nagoyaaqua.jp>
(※一部の欄でご覧いただけません)



さかなかな

2022 夏

Vol.114



特集

南アフリカのペンギン
「ケープペンギン」

- 水族館トピックス
- 水族館アカデミー ダーウィンの箱
- わたしのスケッチブック
- ボランティア便利 私の館内おすすめポイント
- 水族館スクールレポート
- アクアリウム・ダイアリー



名古屋港水族館



特集

南アフリカのペンギン

「ケープペンギン」

南アフリカ

南アフリカ
ボールダースビーチのケープペンギンたち



ケープペンギンとは？

ケープペンギンはアフリカ大陸の南端、南アフリカの温暖な沿岸部に生息しています。体長50~70cm、体重3~4kgになります。自然界での餌は主に魚類で、イカやカニなども食べています。繁殖は1年中行われ、地面に掘った穴や岩の下、ブッシュの中、時には民家の軒下で巣を作ることもあります。

生息地の環境破壊、石油流出による汚染などが原因で、地域によっては絶滅の可能性があるとされています。

南極に生息するペンギンとの違い

ペンギンというと南極やその周辺に生息しているペンギンを想像される方が多いのではないのでしょうか。実は南極域だけに生息しているペンギンは全18種のうち2種(エンペラーペンギン、アデリーペンギン)のみ。亜南極に生息するペンギンを含めても7種ほどです。

南極のペンギンと温暖な南アフリカに暮らすケープペンギンを比べてみると、いくつか体の違いが見られます。とくにわかりやすいのは羽毛の量です。南極のペンギンは全身多くの羽毛で覆われており、嘴の根元や足元までも羽毛で覆うことで寒さを防いでいるのに対し、ケープペンギンは羽毛が少なく、嘴や目の周り、足元は皮膚が露出して熱を逃がしやすいようになっています。体温を守るための皮下脂肪についても南極のペンギンは厚く、ケープペンギンは薄くなっています。これらの違いから、ケープペンギンは南極のペンギンに比べてスリムな体型をしています。

南館ではエンペラーペンギン、アデリーペンギンをはじめとした南極域に生息するペンギンを4種飼育展示しているため、双方の違いをぜひ見比べてみてください。



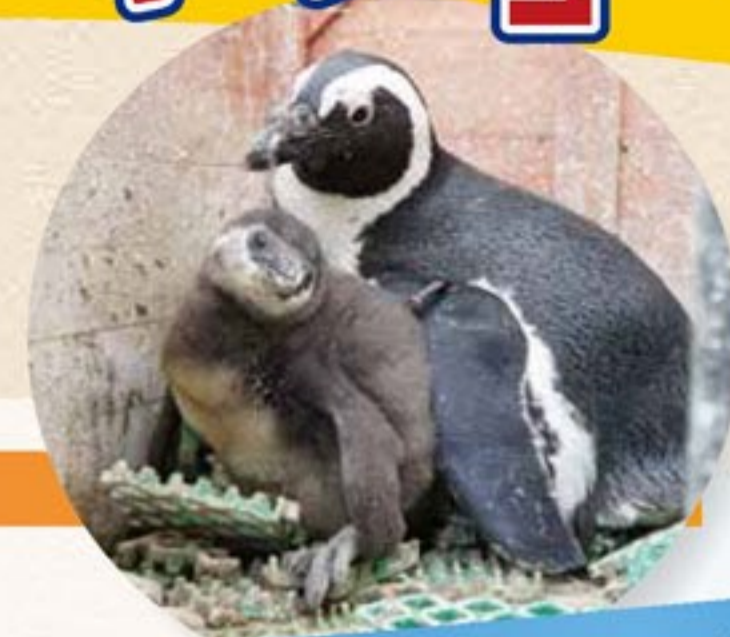
ケープペンギン(左)とアデリーペンギン(右)のくちばし
南極に住むアデリーペンギンのくちばしは中ほど(矢印)まで羽毛でおおわれている



ケープペンギン(左)とアデリーペンギン(右)の足
ケープペンギンの足は根元(矢印)まで露出しているが、アデリーペンギンは羽毛でおおわれている



名古屋港水族館のケープペンギンたち



2019年 ケープペンギン繁殖成功

飼育施設の工夫

当館では2017年からケープペンギンの常設展示を開始しました。ケープペンギンたちは恩賜上野動物園からのブリーディングローン(繁殖を目的とした生物の賃借)によって搬入されました。

屋外スペースのしおかせ広場に造られた飼育舎にはいくつか工夫を施しています。足裏に瘤(こぶ)ができてしまう病気「趾瘤症(しりゅうしょう)」予防に効果があるとされる人工芝を床一面に敷き詰めたり、感染症を媒介する恐れのある蚊がペンギンの体に止まりにくいよう扇風機を設置したり、飼育スペースの床面を高くしてお客様の視線にペンギンを近づけることで間近で観察していただけるようにもしています。

繁殖

2019年には当館初の繁殖に成功しました。初めてケープペンギンの繁殖に携わったということもあり、当時は常に不安を抱きながら飼育管理していましたが、無事に4羽のヒナが立派に育ってくれました。これは私たちが用意した環境がペンギンたちに受け入れてもらえたとも言える出来事であったため、喜びはひとしおでした。

現在の様子

現在は飼育舎外の芝生広場での展示(=放飼)や、給餌解説「フィーディングタイム」、お散歩イベント「ペンギンよちよちウォーク」を実施しています(時期・天候により中止することもあります)。当初は飼育舎外をペンギンに歩いてもらうことで趾瘤症予防を一層進めることが大きな目的としていましたが、他にも様々な利点が見られています。放飼場ではペンギンたちが柔らかな草の上を歩いたり、穴を掘って巣穴を作ったり、日陰で寝たりとのびのびと過ごしています。時には飛んできたチョウを全速力で追いかけるペンギンもあり、変化に富んだ野外ならではのペンギンの姿を見ることが出来ます。本来野生でも見られるような行動や、屋外ならではの变化や刺激に会える放飼はペンギンの心身にとっても大きなメリットがあると言えますし、ペンギンたちがパリエーションに富んだ行動をすることでお客様にも楽しく観察していただけているようです。「ペンギンよちよちウォーク」はお客様のすぐ目の前をペンギンたちがお散歩をする人気イベントとなっており、かつては閑散としていたしおかせ広場が多くのお客様で賑わうようになりました。そして昨年、放飼場には地元企業や学生の方々に立派な日除け小屋を作っていただきました。ケープペンギンの飼育展示を軸に、イベントやしおかせ広場自体の魅力も拡充しています。



2017年 ケープペンギン搬入時の様子



放飼場と日よけ小屋



ペンギンよちよちウォークの様子

赤ちゃんイルカの命名式開催 名前は「レイ」です

令和3年10月2日に誕生したオスの赤ちゃんバンドウイルカの命名者認定証授与式が、令和4年4月29日に行われました。

今回の愛称募集は、コロナ禍で外出がしづらく水族館へ足を運びにくい方や、遠方からもご参加いただけるように当館のイルカでは初めて館内での応募ではなくWEBと郵便はがきにて募集しました。海外からの応募も含めた2219件の中から、選考の結果74件と最も応募の多かった「レイ」に決定しました。

「レイ」という名前は、ゼロが産んだ子供で「レイ」、令和初めての子供で「レイ」、そして英語(Ray)では一筋の光という意味があり、名古屋港の新しい光となって私たちに明るく照らして欲しいという願いが込められています。

命名者認定証授与式では、代表命名者2名に認定証や記念品の贈呈を行い、「レイ」のトレーニングの様子を見ていただいたり、イルカとのふれあい体験にも参加していただきました。当日は雨予報でしたが、式までお天気が持ち、さっそく「レイ」が一筋の光となってくれたようです。

「レイ」は生後半年で体長が180cm、体重が90.1kgと順調に成長しています。最近では、トレーナーに体を触ってもらったり、餌を食べる練習をしています。今後も「レイ」の成長を温かく見守ってくださいね!



栗田館長(中央)と代表命名者に選ばれた鶴岡紗也子さん(左)、杉本脩泰さん(右)

飼育展示第二課 森 朋子

季節展 「入れない!捨てない! 拡げない! NO More アメリカザリガニ」

4月29日から6月26日の期間にアメリカザリガニを展示しました。日本の夏の風物詩?「ザリガニ釣り」で登場するあの赤いザリガニです。私も子どもの頃に近所の池でよくザリガニ釣りをしていました。わたしたちの身近な存在であるアメリカザリガニが外来種とは知っていても、実際に日本固有の在来種などにどのような悪影響を及ぼしているかまで把握している方は意外と少ないのではないでしょうか。そこで今回はアメリカザリガニの現状を分かりやすく知ってもらうための解説と、おとなのアメリカザリガニに加えて在来種のニホンザリガニとまちがわれやすい子どものアメリカザリガニを比較できるような展示にしました。今回の展示を通して、持ち帰ったザリガニは最後まで責任をもって飼育し、捨てたり逃がしたりしてはいけないことを学び、正しくアメリカザリガニと付き合ってもらうきっかけになればと思っています。



子どものアメリカザリガニ(写真左上)はおとなのアメリカザリガニ(写真右)とちがいで色が赤くないので在来種のニホンザリガニにまちがえられやすいです。

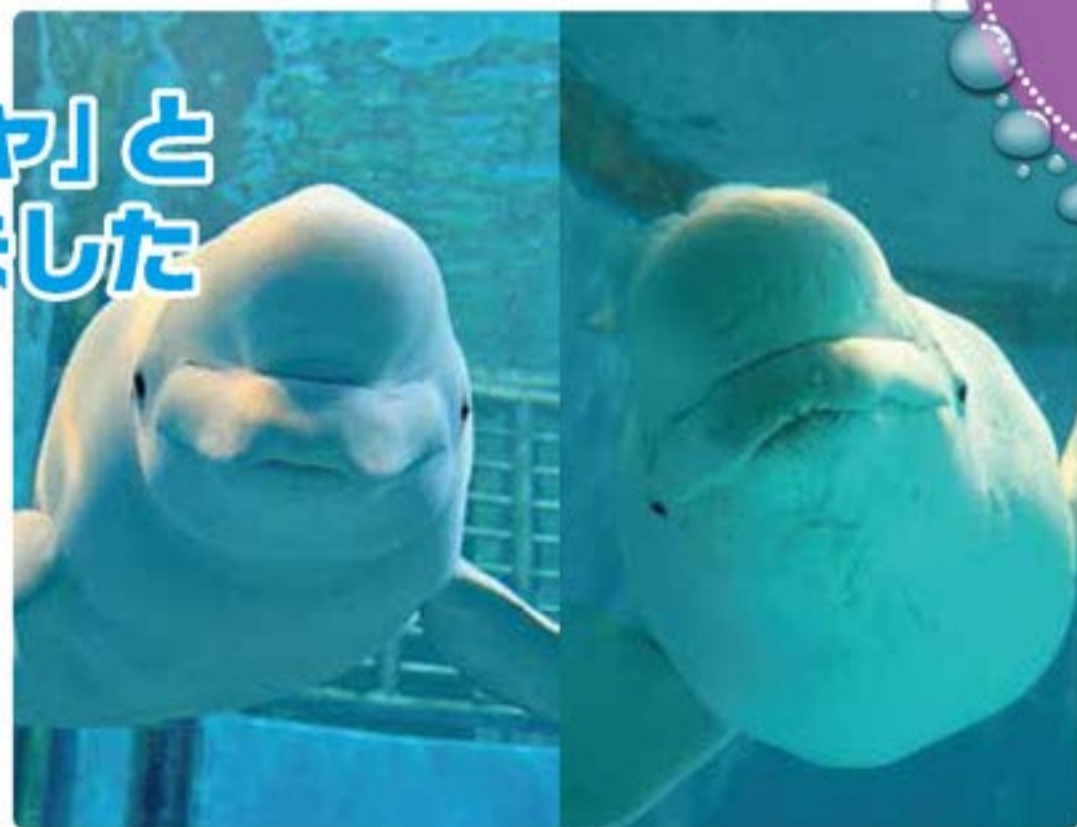
飼育展示第一課 浅井 堅登

水族館 トピックス 2022 夏

ベルーガの「タアニヤ」と 「ホドイ」が死亡しました

今年の4月に「タアニヤ」、5月に「ホドイ」が死亡しました。

タアニヤは推定27歳でトレーナーと楽しそうにトレーニングする人気のメスでした。2007年に「ナナ」を出産。これは当館2度目の繁殖成功例となりました。「ナナ」は元気に育ち、国内で産まれたベルーガでは最長飼育記録を更新しています。タアニヤが死亡した4月10日は繁殖期の最中で、オスと一緒に泳ぎながら交尾に近い行動をしている時に、誤ってプール内の人工の岩にぶつかり死亡しました。



タアニヤ(左)とホドイ(右)

ホドイは推定44歳で北館オープン当初からゆったりとした仕草でお客様に人気のオスでした。これまでベルーガの繁殖に4回も貢献、当館で生まれた「ナナ」と「ミライ」のお父さんです。体調不良のため4月5日から医療用プールで療養していましたが、残念ながら5月5日に死亡しました。死因は現在調査中です。

来館以来、2頭は多くのお客さまに愛していただきました。これまで「タアニヤ」と「ホドイ」を応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。

飼育展示第三課 阿久根 雄一郎

今年名古屋港水族館開館 30周年です

1992(平成4)年10月29日、名古屋港水族館が開館しました。当時はまず現在の南館のみでオープンし、その後2001(平成13)年の北館開館を経て、今年開館30周年に当たります。

というわけで水族館では、この春から館内各所に記念の装飾が施されると同時に、さまざまな記念企画が開催されています。

南館吹き抜けには巨大な30周年の記念ロゴのタペストリー、北館券売所の前には協賛企業のタペストリーが吊り下げられています。また南館ホワイエで現在開催中の「30年の歩み展」では、これまでの歴代ポスターと30年の歴史を振り返る年表が展示されています。さらに劇場公開アニメとのコラボ企画や衣料品メーカーとの商品開発といった民間企業とのタイアップ事業も行われています。

また、秋には水族館開館30周年を記念した特別展も開催される予定です。

今後も様々な30周年記念事業を今年度末まで開催していく予定ですので、ご期待ください。

学習交流課 加藤 浩司



左上:南館に吊り下げられた30周年記念ロゴ
左下:「30年の歩み展」巨大な年表とこれまでのポスターの展示
右:北館券売所前の企業協賛タペストリー



名古屋港ガーデンふ頭の生物～エビ・カニ編～ 飼育展示第一課 中嶋 清徳



名古屋港ガーデンふ頭から眺めた「海」

名古屋港ポートビル、南極観測船ふじや名古屋港水族館などの施設がある名古屋港ガーデンふ頭。ここは大都市名古屋の憩いの場所として多くの方に親しまれています。ガーデンふ頭は名古屋港の一番奥に位置していますが、この水辺も「海」として伊勢湾や太平洋につながっています。名古屋港水族館では1992年の開館以来、ガーデンふ頭の水辺で見られる水棲生物を記録しています。その中からエビやカニの仲間について、昨年の夏までに標本を元に確認された25種を紹介いたします。

エビやカニの仲間(十脚目)は体の構造や幼生時代の形態、繁殖方法などの違いから根鰓亜目と抱卵亜目と呼ばれる2つのグループに分かれ、ガーデンふ頭では前者が5種、後者が20種、確認されています(表参照)。

名古屋港は汚れた海のイメージがあるかもしれませんが、多くの方が

知っている、食べたことがある、あのエビやカニも確認されています。ウシエビは聞きなれない名前かもしれませんが、東南アジアなどで広く養殖され、日本でも多く消費されている「ブラックタイガー」のことです(写真1)。アキアミは乾燥したものや、塩づけ(塩辛)などが広く利用されています。「ワタリガニ」の仲間のガザミ(写真2)やタイワンガザミ、川で漁獲され「川ガニ」とも呼ばれるモクスガニなども個体数は多くありませんが確認されています。

もともとこの地域には生息していなかったのに人間の活動に伴って来た外来種に相当するカニの仲間が4種確認されています(表参照)。特に熱帯東太平洋が原産のハクライオウギガニは、近年日本近海に侵入したことが報告されたばかりで名古屋港周辺での生息状況が大変気になります(写真3)。外来種だけに限りませんが、むやみに生物を人為的に移動させないよう注意することが重要だと思います。

昨年の秋以降も新たなエビやカニの仲間が4~5種確認され、現在名前などを調べているところです。私たちがガーデンふ頭で見たことのない生物はまだまだいるに違いありません。今後も調査を続け、名古屋港に棲む生物を見つけていきたいと思っています。



写真3. ハクライオウギガニ(甲らの幅約1cm・外来種)



写真1. ガーデンふ頭で採集され展示していたウシエビ



写真2. 水面を泳いでいたガザミ(甲らの幅約14cm)

根鰓亜目	抱卵亜目		
	コエビ下目	短尾下目	
クルマエビ上科	テナガエビ	イボイチョウガニ	アカテガニ
ヨシエビ	ユビナガスジエビ	イッカクモガニ(外)	モクスガニ
シバエビ	シラタエビ	チチュウカイミドリガニ(外)	イソガニ
ウシエビ	アシナガスジエビ	タイワンガザミ	ヒメケフサイソガニ
サクラエビ上科	アカシマモエビ	ガザミ	タカノケフサイソガニ
キシユメエビ	ウリタエビジャコ	イシガニ	
アキアミ	アナジャコ下目	ハクライオウギガニ(外)	
	アナジャコsp.	ミナトオウギガニ(外)	

表. ガーデンふ頭で確認されたエビ・カニの仲間(十脚目甲殻類)。(外)は外来種。(2021年8月現在)

わたしのスケッチブック

ハダムシ

飼育展示第一課 岡本 仁

世界中の水族館職員を悩ませていると思われる生物、通称『ハダムシ』。海水魚の体表に寄生する単生類で、担当している黒潮大水槽のシイラもよく寄生されて、駆除するのに苦労させられています。寄生された魚はかゆがって肌を水槽の壁でこすり、二次感染をおこして死んでしまうこともあるため、常に注意して観察しています。



シンハダムシ
*Neobenedenia
girellae*

「ハダムシ」は通称名で、世界中に約200種ほど!

今回は黒潮大水槽に寄生したシイラに付いて、個体をスケッチしました。



ボランティア便り 私の館内おすすめポイント

Volunteer News

【ペンギン水槽】南館3階

ボランティア 三宅 陽子

この水槽には、南極周辺に暮らしている4種類のペンギンがいます。水槽前からは近距離で、正面ベンチからは全体を眺める様に観察ができます。多い時には160羽ものペンギン!とても個性豊かな動きで見ていて飽きません。水槽内は光を調節して、南極の季節を再現しているため、来館時期によって変化を感じる事ができます。水の中



泳ぐペンギンの体から出る細かい泡にも注目!

も右に左にペンギン達が泳いでおり、オススメは体から泡が出ている姿!これは、羽毛に蓄えられた空気が抜けている状態。よく観察してみてくださいね。



明るさを南極の季節に合わせて調整しているため、日本の夏には暗く、冬には明るくなっています。



水族館スクールレポート School Report

リニューアルして再開! ダーウィンスクール 学習交流課 勝見 乃里江

水族館体験スクール「もっと知りたい!ダーウィン教室」は、飼育している生き物をテーマに、実験、観察、バックヤードでの作業などを体験するイベントです。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、長らく実施を見合わせていました。感染拡大防止のため所要時間を短縮し、子どもだけの参加から家族単位での参加にする等の変更を行い、3年ぶりによく開催することができました。

初回は5月15日の「感じて納得!めざせシャチ博士」。4組13名のご家族が参加しました。バックヤードでシャチ用の医療プールや、餌を準備する部屋を見学した後、シャチの食べ物当てクイズ、声で自分



トレーナーの合図で、シャチの「アース」が目の前に!



バックヤードにあるシャチ用の体重計。家族ごとに乗って、シャチの重さと比べてみました。

の家族を探すゲームなどを通し、シャチについて楽しく知ることができました。

じっくり学ぶダーウィンスクールでは、野生生物が直面する問題に触れることもあります。今回、シャチは海の生態ピラミッドの頂点に立つことを紹介しましたが、それ故に食物連鎖を経て有害な化学物質が体内に濃縮されることも併せてお話ししました。子供も大人も、それぞれ感じるものがあつたようです。

ご家族皆様で体験を共有し、少し深く考えていただく、そんなスクールにしていきたいと思っています。